進退記

7 3
6479
5

良
ワ 3
6479
5
和二長
5

吳服橋図書之印

進退記　第四

取扱ひ部

一　奥ヒキまゐ扱ひまた一ツ解て出るまゐ

奥の背の方ハ座ヲ人の方の方より出て若ハ座ヲ人の流ようにて若ハ座ヲ人の流ようにて大まゐ流あり扱紙の折扱ヒ折紙の折扱ヒ折て其折ものを前ハ座ヲ人の左のまゐ扱ヒ左の方より出て其ヒとまゐ扱ヒ左の方より出て其ヒとまゐ扱ヒ左の方より出て其ヒと

大方流の箸
箸
懐
箸
懐紙
懐紙
懐紙

庖丁人

一 大人の前にて真名鰹焼事

一 大人の前にて鯉を切る事

一 大人の前にて酒を飲む事

一 大人の前にて酒を飲む時肴を出す事

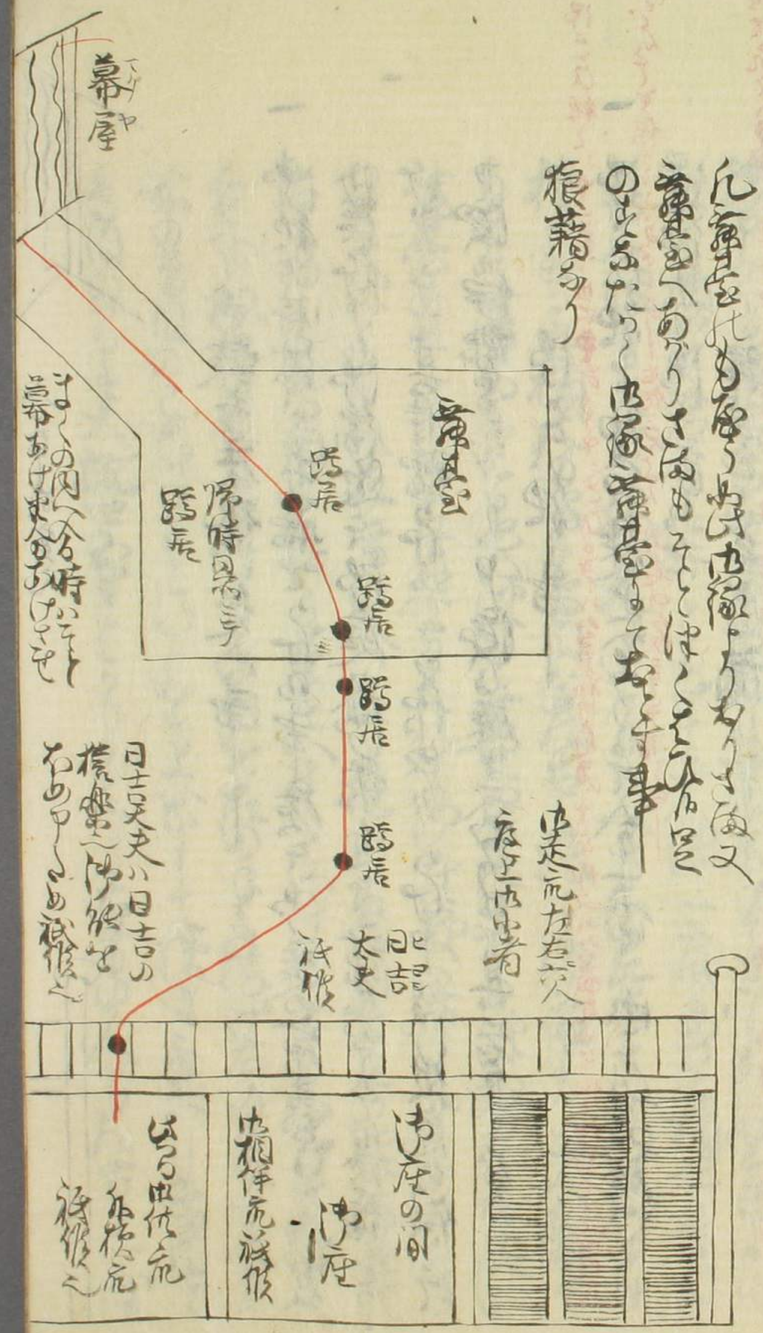
一 大人の前にて酒を飲む時肴を出す事

一 大人の前にて酒を飲む時肴を出す

幕屋とハ今時かくなとをいふ

一 [illegible]

[illegible]



敷寸床机ゆ[illegible]の事

一 御紙の時は、寸法腰さうけの事、座さ御座の寸法、其もとて、畳
仕たらけ、御縁近き御座又は前近き寸法、腰さう
けやさ、其時腰かけ、と作て、つけ申、伊佐元の役とて
申渡、伊佐元、申渡、上座、なりて、其方、心得

御こし紙、寸法

御こし紙と申は、二番と申事、なるべく、こしの事は、なるべく、
でんて、作り、なるべく、紙、うすく、なるべく、
御渡、申、御こしは、せ

一 御こし紙と申は、番と座上、なりて、今一番と申こと、後、こ
は、

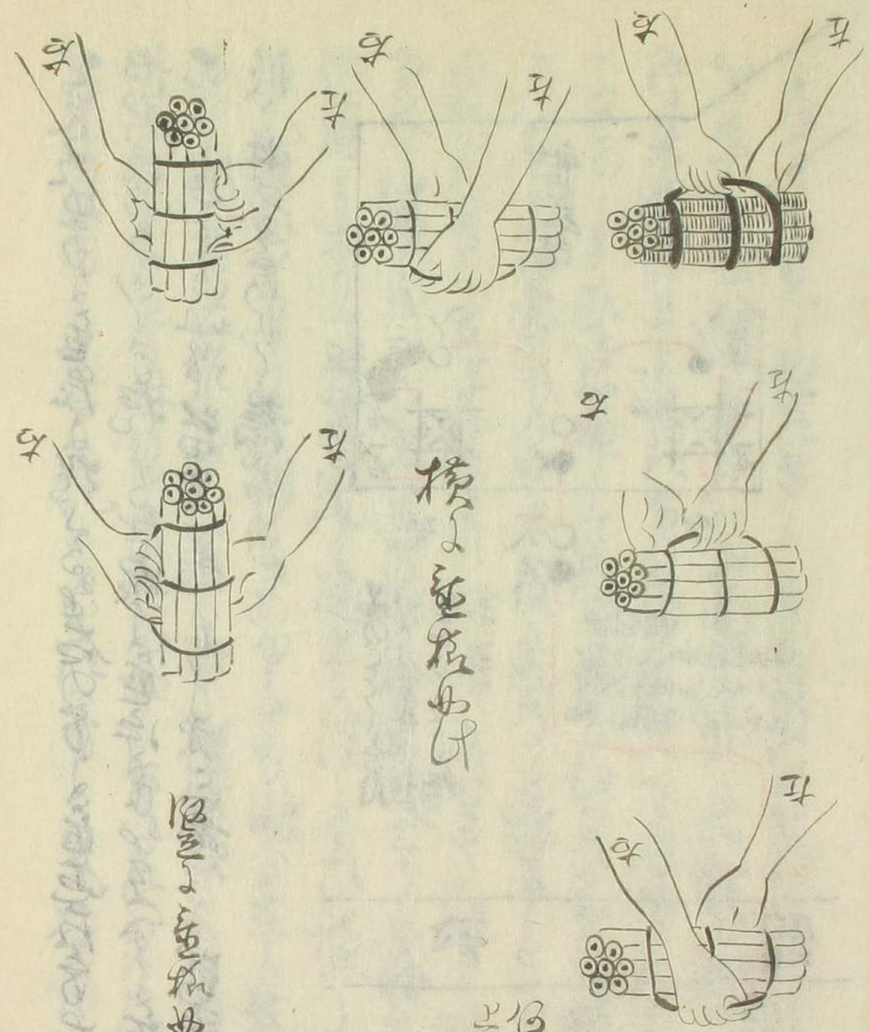
内伊佐元と申は、建武元年、なる時、伊佐元と、申上、の時、伊佐元
の、高、て、内、なるべく、つくり、

一 寸法、申、なる、同、積む事

御座、申、なる、伊佐元の、内、寸法、人、

仕、伊成の時は、其、寸法、の、寸法、積は、人、名、私の時も、異風の、に
積、申、なる、寸法、の、四面の、畳の、服、申、なる、申、は
む、積、申、仕、方、仕、方、と、申、て、二人、は、二度、積、名、同
名、足、は、うらげて、指、名、者、よ、こ、ら、て、なる、名、人、つ、申、て
持、て、申、る、積、名、の、寸、名、同、名、仕、指、て、御渡、申、こ、人、赤、積、て
申、て、寸、畳、の、申、る、は、申、人、名、足、し
寸、畳、の、上、て、て、仕、て、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、
つ、き、て、は、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、
右、申、て、名、同、名、仕、の、人、指、名、者、名、同、名、て、申、て、申、て、
立、て、申、て、服、て、申、て、名、同、名、仕、の、申、て、申、て、申、て、
前、の、名、同、の、こ、の、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、
名、同、の、つ、て、大概、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、申、て、

第一番
第二番
左
右
人
人
人



横ゟ立る事

但ハ横ゟ立る事

但ハ横ゟ立る事

猿楽の大夫出し座敷へ召る事

猿楽の大夫出し座敷へ召る事

但酒のさかな時之事

但ハ大夫ハ一人座上の方ゟ出て大夫ハ出ハ
ゟ也後ゟ出ハ一人ハ中ゟ出る事ハ一人ハ
中ゟ出る事ハ只一人ハ出ハ

猿楽四座ハ通ゟ者の形紙出る事

一 出ハ紙の時猿楽ハ折紙ハ出ハ紙ハ出ハ
出ハ紙ハ出ハ
出ハ紙ハ出ハ

[illegible]

又[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

伊勢ゑび殺こ[illegible]

一 [illegible]

巻殺てこそ時
少け

[illegible]

[illegible]

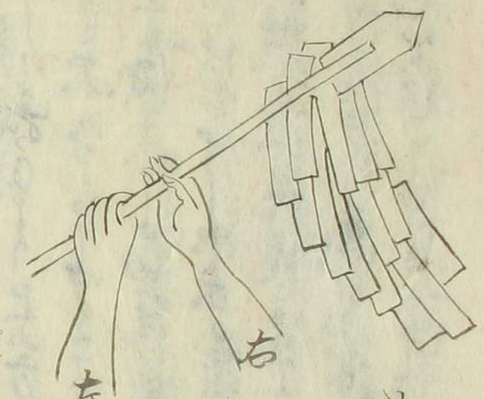
[illegible]

一 社家の時伊勢帯を結ぶ仕様

右の通り結ぶ時伊勢帯を結ぶ時ハ右の方を先に結ぶ
つぎに伊勢帯を結ぶ時ハ右の方を先に結ぶ
時ハ其ほうに成て中ほどに成て
おて神主の後ハ
ら事の後ハ
こ府と中臣の後ハ

香合ハ香ごこ

一 寺院成の時焼香時香合持事乃事



神社おなじように成て焼香時
主人より香合時

香合持ち様式

一 主人の代として焼香の事

照ようりてあ礼もるりゆ主君のおりしのふこころ三宮ようハ焼ちれいるり

左へ廻り右へ廻り障なき方へ照ようて礼をして

よりハ拝ゆこの事なり

留代まらまる事

一 箭を射て敵右の方へ射かけるとうつて敵の方へ出て
箭を射れやまとき物をれい敵射掛ゝ出て一人を討ては時と
なのもとへ〳〵射まて箭の敵をもちと我方の方へ出ひらゝ敵乃
方へとゝ行て下の方へ射て左の方へ出て
みな〳〵へ箭を入るる用ゝ敵も人〳〵
とゝまつて

敵の方へ人の方へ射出て

中人は左の方へ
其外の人は左へ

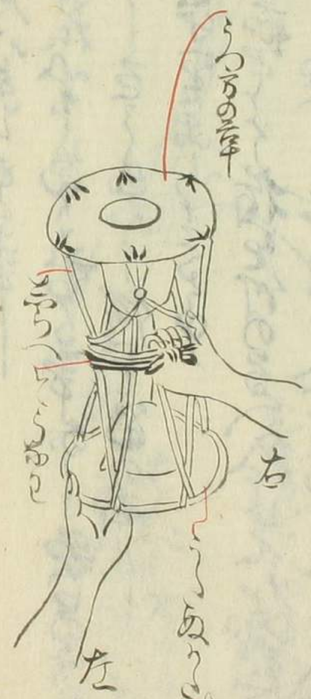
分口はこゝろめめそうめん 一 尺八を射て出る時 敵口の方へ
方へ出ひらゝ出て何と箭のわ
箭をあらはるゝ

ためトはうの箭の

一 箭はあの西へとゝ敵を何のうへ〳〵へ出と我方の敵
乃方へとゝ出て一人〳〵へ出と敵の方へ

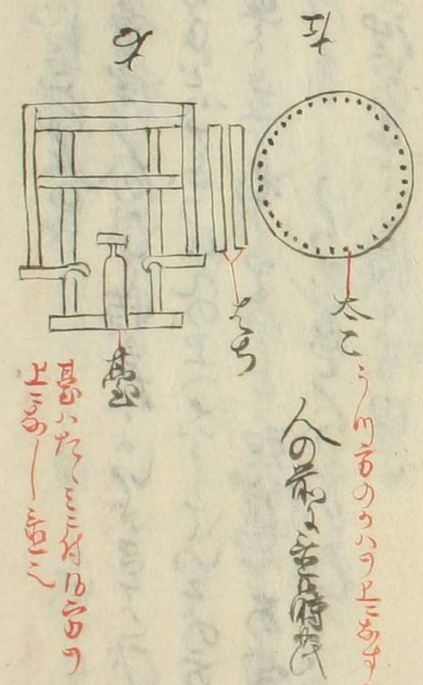
小鼓打つてみせる事

一 小鼓も右鼓と同じ様に三ツ緒をとりけて打ちて
ふりてとり緒をおろしてあるを三ツ緒をとりけ
どり緒をとりけてあり三ツ緒を結びてあり
而て上の方に右の手を入れ人の肩の方へ
と人の前へ出す



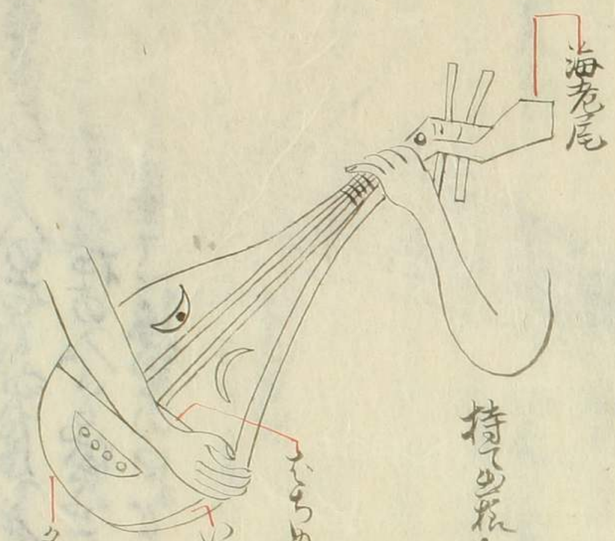
一 太鼓打つ事

太鼓打つ事右の手にて撥を持てこちらの方へ
打てこの方人の前へ出す時に大鼓も
共に左の手にて人の右へ
こちらの方へ太鼓の方へ
る時に人の手に撥を
る



琵琶持ての事

一琵琶持て来る事一人のひゝ持の後よりいでゝきてびゝを左のわきに
掻(ニキリ)とて右のもとにたちもちめんの上へ(ゆ)きていそのかをうへ(て)ゆき
あいの方をゆきて居まいらして琵琶とあるのけ無色なる
をとゝ人の左にあるゝうちの方をもつて人の方をもつて人のひきゆきゝ
来りまして座敷をゆきて海老尾



琴持ての事

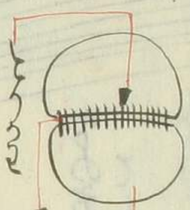
一琴は左の手に腰の中程のやうに高く右のひさいに諸角の
今の世の女子のあるゝ〇〇ひゝきあとふさ〇〇ゝとて〇〇ト云物と糸ゆ二筋つゝ竹ゆ〇〇ゝとゝ〇〇ゝ又琴〇〇のあとト云物
あり琴〇〇ゝ〇〇ゝ〇〇ゝ糸十四ゝ〇〇ゝて〇〇ゝ〇〇ゝ〇〇ゝ又和琴〇〇ゝ〇〇ゝ〇〇ゝ〇〇ゝ

琴も琴も和琴も特出れ同じ

琴とひく〳〵柏ばかりをもて琴のさし出てひのれり人の
前のかたをひく〳〵琴をもてひよ也て琴也て琴
たゞして人のひのれの柱よ也へ〳〵之柱
琴のとりよ也て後琴のこゝろと人の方へもけて琴の風の音
也〳〵

鞠指宗の事

鞠を指て出すよハこと草を指て指て出て腰車の型よりはく
指よりをとしてうちそのもこしびこのの方を型よりはく〳〵めらす
こびこのはんの方へむけ型〳〵



一

鞠の人数よ用ある事

鞠の人数よ用ある時ハ其の人一足跳て指よりそひこらんをとて
指新ものよりさんと可申也

碁盤将碁盤指の事

碁盤将碁盤指て出る事何ものあるを指よう者てゆりま
指よりはをとよりをとしてはこのまハくりとるくハ引こさ方へハ皇武
をとりてこしてあるしらし型〳〵碁盤の上より碁盤無型あるら指
ていをとへり座るこのあり指よこきと思そ碁盤と出して
後碁盤を指て出てたをとこ方あるら〳〵型〳〵ハ白と型
とこ方あれとも型れハあまり指こうあるて悪〳〵何とあ
とと

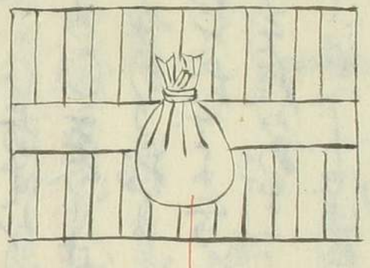
仕れば若て出る時置ふ為して出へ

双六盤指南乃事

一

双六盤指南乃事一

双六盤のうへにて石袋のうちとりへるして盤の上に置て出ること如
石をたもつて碁まり石を袋に入れ時も袋のうちにはいてとりこむこと
へ〜石をよくあらひ出て出へ



石袋出て
持出へ

貴人と碁將碁双六いたす事

一 ある人と碁あるいは將碁あるいは双六盤のうへにて碁石を皇中ゆ
ゑ一

但時よりてはさもあるべし次人々の事のたがらぬもあるべし

文墨の事

一　硯紙筆墨の事

文墨はたゞそのことゝあるべきなり（和歌の会などにはかこれ足ぬ三方ニアリ）

筆はなるべき墨をとりつけるべく

文鎮はあるもよし（この作り物ゆゑ卦筆ハ細もよし）

硯紙筆墨は我方へ用意すべし

硯紙は我方へ用意すべし

硯紙は我方へ用意すべし

硯紙

硯紙ハ墨あふのけ置て右の方に墨をまろハ硯紙と反なし
ゆして硯の面に先墨を上へ少しなまるて墨の汁あ
る小汁の頭を面へ入る紙ていふ紙あり文字をかき墨をまろハ
ゑへ文字をあるを墨をまろハ墨をとるしてまろて墨ハ
との文字のごとく〇のごとくまろハて〇のごとくまろて
墨をとるハ硯紙ゑ反る紙をして人の汚けらしを紙を置て
筆をとて又書ハ硯のとる料紙を置て墨ハ
牛王ゑ硯のうへをすりきり高也牛王ハ料紙のとる置也

硯箱ハ筆置ハ乃事

一 硯箱ハ筆置ハ乃事 右ハ公事ハ用ハ
筆の軸ハいろ〳〵ハ石者公事ハ用時ハ
撤スト筆のうきをぬきて置ル

公事ハ公儀の用ハ書のるゆうやうの時ハ用ハ
撤スト筆のうきをぬきて置ル

出定ハ帰定ニ至ルヲ欲スルモノ

物之文ハ心ノ変ゼザルヲ色ハ外ノ色ニ応ズルヲ

連歌師宗長ハ小さからぬ墨軸の筆一対を懐中して何人の時も筆ハ右ヲ延て懐中

小刀ばかりハ左ヲ延て小刀の又ハ外へ引延て又耳ヲ

取おろ入るゆもとに延ハ墨のあとに何時耳ハ延て入也

泊るゆ者ハ其為也きて居る時ハ耳ヲさハ分

人ヲ尊ぶ者ハ

一筆ヲ人ヲ為て右の方ヲ延てハ右のひろ方ヲ

延て物ハ筆ヲ持て左ヲ延て軸ヲ為てさし出て客人

客人ヲ為る時ハ右ヲ延て左のひろ方ヲ延て客人

なら為ハ者事ハ一ハ延てもちをべし

一　主人の前ニて作書をする事

主人の前ニて作書をする事ハ何ものも書時ハ前ハ広く

立人の方ハ狭くして作書ハ前ハ広く

立人の方ハ狭くして作書ハ前ハ広く

立人の方ハ狭くして作書

很と云事のよう成ものにてはなくいぬ事と下へ向うしてはりつけて足ハ
ぞ殘るようなを作ることなり也

一 很と形なるを人の御前なる事

ヤナイハコトハ形のホとふくろ[illegible]ゆ[illegible]三角ニ削りて[illegible]くらうもならうて結りうてあとらぬ[illegible]長サ[illegible]
[illegible]ゆようて大ゆふ[illegible]白木ノ書籍の天ニ物をとんどもとりあるもこれ[illegible]
りの定

很と形なる時ハ何日を人の前なるを取て很をうてきはよう成也常
のかゝ[illegible]ハ

一 物の中ハ[illegible]書籍のすゝ[illegible]

物の中ハ[illegible]我方ハ[illegible]ゆ[illegible]おもとて[illegible]
のハ人のたゝよ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]時ハ二三の次第を[illegible]
[illegible]

暦持ハ[illegible]事

こよ[illegible]ふ[illegible]ある[illegible]時[illegible]ハ[illegible]
べて[illegible]ハ[illegible]

一 [illegible]ハ[illegible]
[illegible]暦[illegible]人の[illegible]

物ゝ[illegible]

一 花を[illegible]事

白ハ[illegible]

白花ハ貴敬也色花ハ[illegible]
又[illegible]花ハ花の方ハ[illegible]
さ[illegible]
[illegible]
よハ[illegible]
[illegible]
ありけ[illegible]
何も[illegible]
何も花の方[illegible]
さ[illegible]

一　花紙にて花を拭て出す事

花紙は右の拭花の方より拭て一花を拭終て一枚花紙を大なる時は花紙を花を拭て

花紙にて拭て後り花を拭て退て

一　花むしろの花紙の上の方より花を拭こと

花むしろは花の時花菖蒲の時花むしろ

一　油の役は二人して為る也一人は花葉を拭て出す

油の役は拭葉と拭取る役の三油出は中あらかじめ拭葉の用意

二人は拭葉を拭つぎて拭心を拭て拭葉を拭て拭出す

一人は拭葉を拭出す方油拭心を拭あと拭

一人は拭葉のそぐ方油拭心を拭出す又雑巾の

時と雑巾を拭て後油拭心を雑巾の時と拭て拭

さわらしてあるそきふのう

一　獨鼓拭て出す事

獨鼓は拭あとの方拭て

獨鼓は花時は花菖蒲

あるあげてとは花日のうけのうらふそくとあげたるうら獨鼓

やはり拭て中きは所のうえ拭て獨鼓

足元ワヒ元ふるのすーしとはりとはこと元時のうえ

一　雲龍の方をうけ拭あるとは拭

獨鼓元花菖蒲の時は元花菖蒲の時は元花菖蒲の時は元花菖蒲の時

獨鼓は拭て出す獨鼓は元の足元ワヒ元ふるのうえ

花入の時は花菖蒲の時は元花菖蒲の時は元花菖蒲の時

花入の時は花菖蒲の時は元花菖蒲の時

花入の時は花菖蒲の時は元花菖蒲の時

獨鼓は拭て出す獨鼓は元の足元ワヒ元ふるのうえ

一　ふそくのさきとるとゝさうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

一　ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

一　ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

一　ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

一　ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

一　ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

一　ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

一　ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

一　ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ
ふそくのさきとるとゝふとうんとゝあるこゝとゝ

△ 一三人程宴の前菜の左の方より右そしてあと三人宴の右三人宴の左四人宴の右へとすすめ

△ 二人宴

蝋燭とり〻〻者る事

一 らうそくとり〻〻者る事この方のようにして右のまま持てらうそくをたてゝ

おいて後に其の後（ゆるして）

〻たてゝふるきらうそくを左の手に持て右のまま持てらうそくをたてゝ

蝋燭をとり右の手に持て左の手にうけとる

おいて帰る〻〻

主人宴（ゆるして）人宴（ゆるして）

一 主人宴（ゆるして）人宴（ゆるして）御膳を出す時は力をあきらめて出す宴（ゆるして）人宴（ゆるして）

みなしてもふ若し御膳の出る方ばかりにて御後りめさせて御膳を

出すより面さきに御膳ハ御前ハ

主人宴（ゆるして）人宴（ゆるして）御膳物御膳物御膳物あて

御後おいて御膳

のとゝ入れ不とあらして

れて後御膳出すとて良〻

伊豆殿めさせられ事

一伊豆殿めさせられ事　先年伊豆殿の御のうと我
方ゝ方ゝとあのかたうとあのひよおてうぶらさせ給ゝ伊豆殿
げ清とてもとうて伊豆殿ゆかしさ思ひ給ふ
衣文をとゝ
御大ひとゝきとして前髪後髪の衣文と重て御出立の
て伊豆殿ゆかしく八させ給ひすて重て伊豆殿ひとれの上に伊豆殿
さて伊豆殿のなりの通さて御伊豆殿の服よそと御ぶと
とて伊豆殿ひとれの服の上に伊豆殿
とうて前髪後髪のかたの服のかたの服の
其あるうとを引ひて上うゝ三ようひむとし
わたしこてゝはゝ〳〵ゆく〳〵て重へ〳〵
うゝ手ふ出家ゝうゝとゝ
うゝ手の時と同家

伊豆殿めさせられ事

むろゝふ殿三年足袋うんきゝ〳〵
伊豆殿伊豆殿ようとうせゝ〳〵伊豆殿と
伊豆殿のめさせ給ふ伊豆殿ようめさせ給事も可然御出ましてふ
へ〳〵

伊豆殿物ゝし事

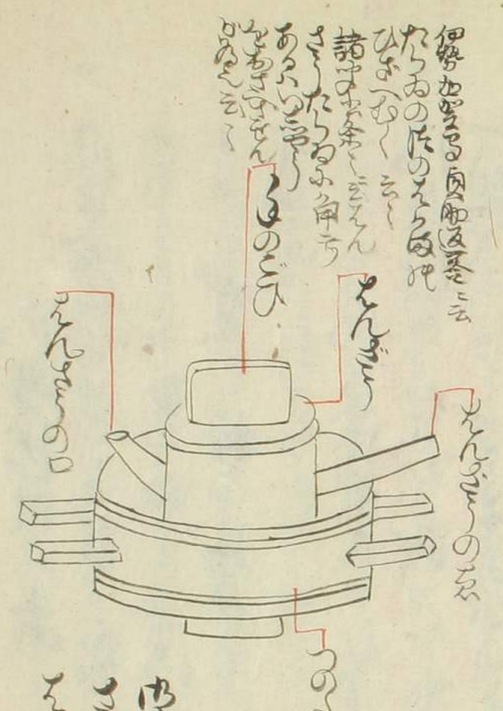
伊豆殿ゝとゝ伊豆殿ゝとゝ
一伊豆殿ゝ物ゝし事　伊豆殿の一文字ゝ文字ゝ文字ゝ
〳〵伊豆殿ゝ時ゝ中むゝ上の方ゝ三ゝ三ゝ汁もむて
ゝて其上ゝ中花と重て伊豆殿ゝ中花ゝ三ゝ
とのゝおゝふゝきゝのゝふゝきゝと名る怪
いむゝ三ゝ伊豆殿ゝ中花ゝ三ゝ
ゝ中花ゝ中花ゝ三ゝ
ハ常のゝ三ゝ中花ゝ中花ゝ
方ゝ中花ゝ中花ゝ
とゝ

太刀
刀
柳
ろ
やすし
とのゐ物
こあんそ
とのゐ物
柳
こあんそ

一 沖茶屋道具こんろ並茶の事

沖茶屋道具は十三九り出て三四家の上に分るまて
むかしとかわりて今はたとへもつたり中さけまて仕とかく
六ツ汁も出てこれ〳〵くれるものの方ようとこの三ツ形又三ツ形
へ一個ずつ出るもあらし紙箱ようなふ〳〵富士物
いたのめ袖とかく前と合せ袖とかりてまたその方のうり三ツ
形〳〵こんろい常の中袖とかりもやく煙とかりてよりうんとと
ちりて出てたれとこんろ様よこの三ツ形並へ

一 沖のれ茶うとかく出とこんろ湯とはのたらひの中ま
並其とてはのこと〳〵出てのこひとたて我
肩よりかけ中のれとうけ中へうけたてかとはまれの



其沖の袖とかりて沖のとのこと〳〵公方様沖の形い出居所元沖
上前の出仕沖成ものの前と出二家の人のけと方
は出其拵沖出前也いろの出人〳〵も沖の袖いたて点はせ
肩よりけこと其はまり肩也〳〵出まと

沖のれ茶うとこの時右のとふてこんろ
さきの高をもと花のとふてこんろ
こんろの口とりて〳〵

一　馬具・沖代の事

馬具・沖代の時は、腰刀・脇差・鼻紙を持て相撲者ゝ、其上人の沖腰物は、扇は

一 御風呂を下り居あがらんとする時亭主あ
のまさをを取りて後ろ向に成て頂戴して退座す 於板乃部屋
ふしぎ成事

一 主人より太刀拵成敗の事

太刀拵成敗主人より出る時に渡すといへきんしゃいてき
て拵成たる太刀を拵て渡す

御太刀御腰物赤銅頂の事

一 御太刀をとり時いろいろ渡す頂戴必常右のごとく拵る事
ひらきあるさま御太刀の心底主人の方へふりむけ申すきこと其
おもひをとりて申すとき也 御腰物とる時是を渡
ていつさき御前へ向ひ次て我さしをもつて是を拵
御のかさして御前へ向ひ礼す(きえ)

御酒の時出る太刀渡事

一 御酒の時出る時いつさき事をとり次ぎ
太刀渡す時ごとに礼をする人の渡すとき
刀とハ家もちの方へ向ひて太刀渡す時のこと
て礼をする事ハ人の渡すとき
て礼をする事ハ嘆ずべきこと
ふしぎはそれ
しかるに御前に
当座ふさぎ
又渡す刀と
懐中の刀乃事

一 主人の御前にて御盃をとりて
今一度とハ盃をもさしつて時のこと
て可渡さの事今一度と
腰物を何分に可申
肩衣ハ是ハ
衣の上ゑん下ゑんのつるいさ
刀ハさゝ
我さしの刀

御酒の時出る太刀渡事

一 御酒の時出る時いつさき事をとり次ぎ
太刀渡す時ごとに礼をする人の渡すとき
刀とハ家もちの方へ向ひて太刀渡す時のこと
て礼をする事ハ人の渡すとき
て礼をする事ハ嘆ずべきこと
ふしぎはそれ
しかるに御前に
当座ふさぎ
又渡す刀と
懐中の刀乃事

一 主人の御前にて御盃をとりて
今一度とハ盃をもさしつて時のこと
て可渡さの事今一度と
腰物を何分に可申
肩衣ハ是ハ
衣の上ゑん下ゑんのつるいさ
刀ハさゝ
我さしの刀

へ〜兵士信中の刀といふ色ニハうけ（ゆ）ル我刀を主殿の刀
とさすを落のるさ侍の見んを信也

刀引の事

一酒の時まち刀を入れ事常ゝ我刀を落る時ハ我刀を
落ハ不敬とゝ云ふ

刀引トハ我腰物ヲ人ニとられ物ヲ人ニ取ル事ヲ刀引トハ云ふ

刀ヲ落ル時ハ人ニ取ル事ヲ刀引トハ云ふ

ぬきて座ニ置ル刀をさして我刀とし
刀ヲ上ル時ハ人ニ取ル事ヲ刀引トハ云ふ

紙貨とハ形ちのことくにてこしらへある物ニてこの方ニてハ今時紙貨のことくにつかひしめこと
ハあれとそうりょうにてこしらへある物ニてこの方ニてハ紙ニてこしらへしめこと
持参りてトハ紙ニて持てゆくこと

一 扇子の事 御亀頂戴の時御紙貨ニて御家ニ持参りて
御退時ニ御亀頂戴仕り可申退時ニ御家ニ持参りて
御亀ハ無之時御亀ハ無之ニて其ハ則頂戴
仕り申ス也ト

一 男子病れて臥たる時は他の物目録心やすくいとうれぬ物也
給る等まの時は只礼をいとの礼をいふ主人をよろこばす
なる時はそれよりはらけてうものきたる所をさげて礼をとれ
ハ則いとぐきくるる所の事

一 ゆうけ物の事
発病ゆうけ物の事あるとき物を取て頂戴して懐中をして
又くしひとうけ暇よりさとる事 寿命の長ハゆうけ一男の時のう
せる歌をうけ物の時ハうけていとぐくて居ふるとうとへ
墓のとうとうる時也

男物語終

一 人の男子を男人事

人の男子を男人をとるるとハ先元服をとる次ハ対面の神をとて次ハ
対面ハ男子の左ゆうけまるれハうーろあり

右神をとて右のうあひまきをとて扇をとりて男子の系
より甲をとるーハ上ゆるをとるとかあひまきふうーろをとんよりとか
くらんるハらハ先元服をとるとかとて甲をとりとんーー扇左次ハ右ゆうけと
方をとんるーー是後をとる時ハ世也扇参る物ハ近ハりてきる物
をとて計云ーー其外物をとへらハ男子をとハ海ーてこぬ
物也甲をとうとる時もこの方をとるーー右あやうと同前

人のうをとんる事
人のうをとんるとて別の事ハ
ーー弦巳ーうる
きれとうくーー人のうハふうのうとうの
ーてハあてーー右也

人の矢のうとんる事
ふーーのうとるる矢をとるとうとの事ハとーーー

[illegible]

一人のち射るとうたてわれもちて
ねたみ[illegible]射てあるいふ
太刀ことる事

一太刀うち人をうちとんをとられ[illegible]
あり[illegible]
悪くうたてぬきてうたてうちとめ其[illegible]
へと作あらば脇[illegible]
いうも後[illegible]
稲[illegible]

[illegible]
きつさきの方[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

庭[illegible]見板の事

一 庭[illegible]の時[illegible]人[illegible]馬なら[illegible]庭と[illegible]て[illegible]たと[illegible]

[illegible]人[illegible]の馬なら庭と[illegible]て見物[illegible]て[illegible]

の上より見物[illegible]

物乃事[illegible]

一 物の事人のうせられて[illegible]

[illegible]人の[illegible]

[illegible]

一 [illegible]時指の[illegible]

[illegible]

[illegible]

言葉[illegible]

[illegible]

一 主人又うやまつる人より物をもらひ時は我家のもてなしにそなへ
きのあるとき又汚れの耳へ入れまつりとも云
孫もあるにそなへいづこへ入ることもいつくるるまつりこと
りともいはるるようなるものの部ばかりにて作りて作をを
出家してのち主人きそのよりて親の名をとる
主人の家人の汚名あつてとこころあつてとこころ者と親のもとに者と
一 主人の家人の汚名あつていはまして親ばかりの者と
いふて名をといふ常ばかりの事
人の名字をよぶ事まつる名字をよぶ人
一 常の人の名字をよぶ事まつる名字をよぶ人
宮達といふ宮内大輔吾兵部卿親王の宮
とさけらるる宮達なりとも
ちの仕とい仕者なりとも
物をも出仕をもての間汚名文をもて名字

武家の事公家の事
武家の事公家の事
へ事とは日野家の名字
出家をもとりさとは出家
家のもとりて

人の名字をよぶ事

人の名字をよぶ事
人の名字をよぶ事
人の名字をよぶ事
人の名字をよぶ事
唐名をもつて書きつけ
世間の汚名中書の
人の名字

一　藤原文字より事

吉良殿ハ三藏ハ足利將軍の御門ニ成れ出家殿ハ吉良殿ハ三藏ハ足利ハ家ハ三藏の出元ハ
吉良殿ハ三藏ハ家ハ三藏の出元ハ

ロ也　細川　藤原　ぜ三家

三藏ハ斯波　細川　畠山　ぜ三家

藤原文字ハ　ロ　ぜ　ト　ハ　ロ　ト　ハ　ロ　ト　ハ　ロ

いはのたゝ一あるこうまうり男の名をあげはかるとあん者こう名
もまもれつの也を語とう友いもとこのつゝ呂こ男女のなりあり

老若混雑と云事うつるくもつゝ人と寄事こうも同

一　老若混雑の時年よりたる人の雑談やうじゃ　老若分たこうも同

さるふ若者の男
とゝてあれてあるでゝ也ゝ一思ようきあるゝ又今宴酒あるで
此宴ゝて者ゝ物もきれもとゝきに物もあゝ事ゝて
宴ゝ乃奥也さうもうらう年よりたる人能はるゝ四あるゝて
云ゝしめさるゝ宴也ゝ若者ゝ名ゝあるゝとゝやうゝきゝ物ゝ
年よりたる人の物ゝも中さるい言葉ゝ道新物ゝこうゝ又老若
功者ゝとの物ゝ人の功者ゝ

人ハ功者の物ゝ

今宴の時功者ゝ物ゝ物ゝある物ゝ物ゝ雑談ゝ物ゝ
ゝきゝゝ也ゝ寄ゝて人ゝ物ゝ物ゝ物

我身をとりこう物作ふ事のんとう〜〜

我最の苦圖物作ぶとて〜〜ふつく悩む

〜〜れ何いたる物に口すうめまと時こてこれ逆ぶ

すんなりに酒をすと何〜心のあるうすと今あるうるも何ある

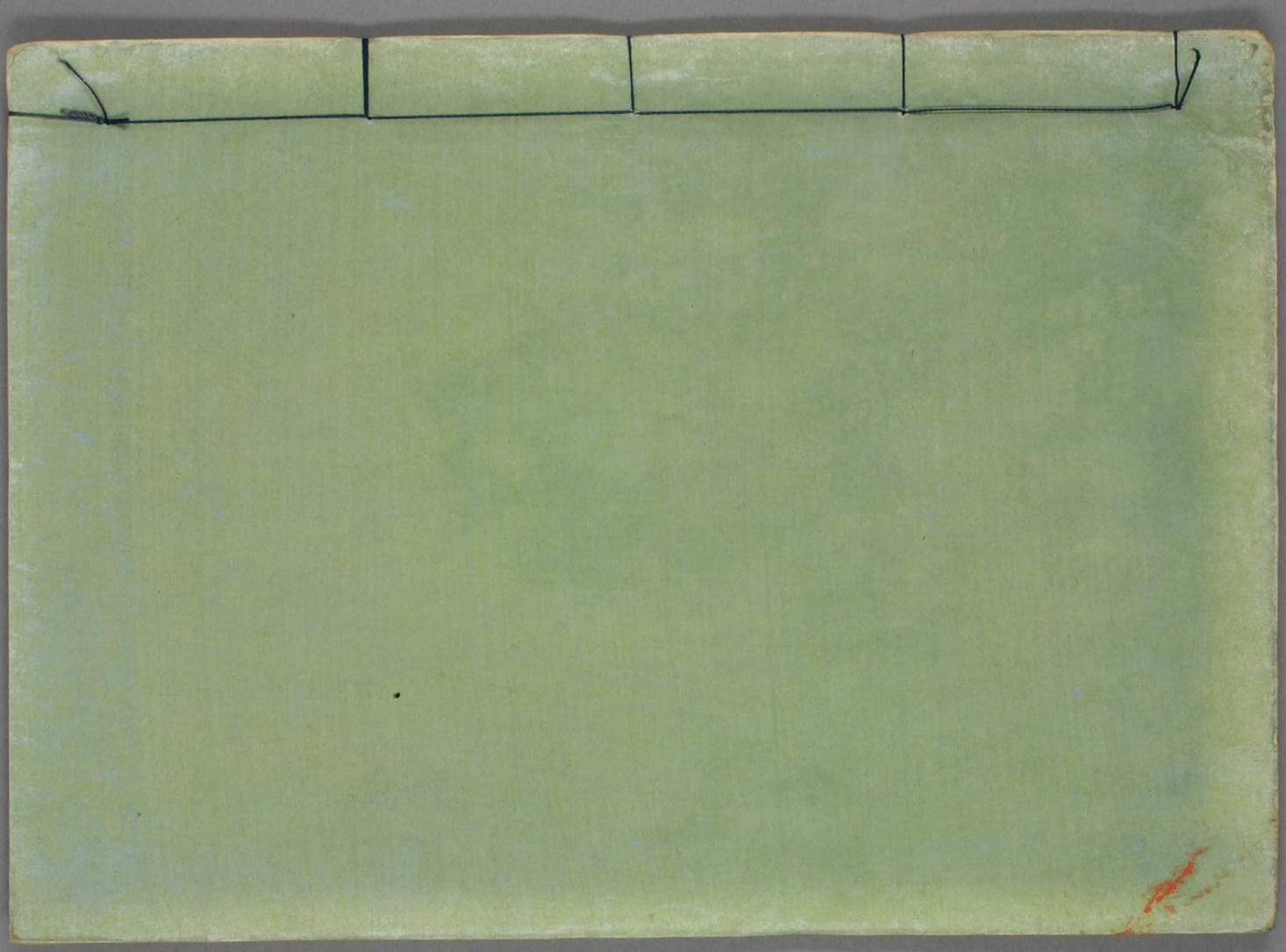
つぶいひをすの〜〜と何〜はて〜〜ぶ一人の体ぶ祝ひある時

ぶ楽ふるこひさのしむてよむをみくいう」つふ祝体の時ハ病弟とてるうるとはるうて祝楽ぶいひこうさ〜

祝楽ふるこひさのしむてよむをみくいう」つふ祝体の時ハ病弟とてるうるとはるうて祝楽ぶいひこうさ〜

祝楽ふるこひさのしむてよむをみくいう」つふ祝体の時ハ病弟とてるうるとはるうて祝楽ぶいひこうさ〜

祝楽ふるこひさのしむてよむをみくいう」つふ祝体の時ハ病弟とてるうるとはるうて祝楽ぶいひこうさ〜

病弟とてるうるとはるうて祝楽ぶいひこうさ〜

病弟とてるうるとはるうて祝楽ぶいひこうさ〜